

1 単元名 New Crown Lesson3 Rakugo Goes Overseas

2 はじめに

日本の伝統文化について理解を深めることは、生徒が日本人としてのアイデンティティを獲得する上で重要な役割を果たす。いくら生まれ育った国の文化とはいえ、意識的に学ぼうとしなければ触れる機会すらなかなかないのが現状である。海外留学をした日本人が、他国の人々から日本のことを質問され、うまく答えられなかったというような体験談は頻りに目にする。自国の伝統文化として落語を学び、またそれを世界にも誇れるものであることを、英語落語家として活動する方のインタビュー（教科書本文に記載）を通して実感させたい。また、他国の笑いの文化にまで興味関心を広げ、それらが日本のものとどのように違うのかという点にも着目させたい。

3 ねらい

落語について知り、英語落語を行う活動を通して、現在完了形の文の構造と意味を理解するとともに、伝統文化を広めていこうとする態度や、国際社会における平和に関心を持ち、異なる文化を尊重しようとする態度を育てる。

4 指導について

(1) 生徒の実態
省略

(2) 教材について

落語の起源は、1500年代の室町時代末期から安土桃山時代にまでさかのぼる。当時、「御伽衆」と呼ばれる人たちが、戦国大名の話し相手をしたり、世情を伝えたりしていた。そのうちの一人である安楽庵策伝は、現在にも伝わる古典落語のもととなった「醒睡笑」を著したことから、「落語の祖」と呼ばれる。策伝は、オチのある「落とし噺」の名手として知られており、のちの江戸時代、その落とし噺を京都の大通りなどで行う「噺家」が誕生した。この噺家が「落語家」の始まりであるといわれている。こうした長い歴史を持ち、未だなお受け継がれている落語だが、落語を今までに一度も聞いたことがないという人は、特に若い世代では少なくない。落語は、日本における伝統的な大衆演芸である。老若男女問わず、誰もが気軽に楽しむことが落語の魅力といえるだろう。しかし、引き継ぐものがないければ、後世には受け継がれない。生徒たちには、次の世代に伝承する役目が、少なからず自分たちにもあることを自覚させたい。この指導案においては、落語そのものの面白さを実感させることで、生徒たちと落語との距離が少しでも縮まることを第一の目標とする。その上で、落語を伝承することの意義、伝承しようと励む人の想いを想像させることで、伝統文化を身の回りに広めていこうとする態度を育てたい。

(3) 学習指導について

生徒に落語の面白さを実感させるため、総合的な学習の時間と連携して生の落語を鑑賞させる。本指導案の第4時を行う前に、この鑑賞を行えることが望ましい。鑑賞を行う前に、本指導案の第1時等を通して、生徒自身と落語文化との関わりについて整理させる。生徒自身と落語文化との距離感を認識させることで、伝統文化の継承に関する問題意識を持たせたい。

英語科としては、各授業において4技能（話す、聞く、読む、書く）に関する活動をバランスよく取り入れたい。それらの知識及び技能を正しく定着させ、実際のコミュニケーションに即した反復練習を通して、自らの意見を伝えるための手段を生徒に身に付けさせたい。また、英語落語を体験させる活動を通して、楽しく英語を使用し身に付ける機会を設けたい。一方でESDの観点からは、決まった答えのない問いに関する話し合いを通して、伝統文化としての落語や国際社会における平和への関心を持ち、それらを尊重しようとする態度を育てたい。自国の伝統文化である落語への理解を深めさせながら、様々な国のお笑いに関心を持たせ、文化の多様性を尊重しようとする態度を育てたい。

※ESDの視点（資質・能力）

- ・ 有限性

後継者がいなければ文化存続の危機となる。ただ英語落語をするのではなく、伝承することの意義、伝承しようと励む人の想いを想像する活動を行う。

※ESDで育てたい能力

- ・コミュニケーションを行う力
グループで共同して、意見交流しながら落語を英語落語にしていく。

※ESDで育てたい価値観

- ・人権、文化を尊重する（文化多様性の尊重）
英語落語を体験する活動を通して、日本の伝統文化を尊重する態度を育む。また、海外のエンターテインメントや生活文化に興味関心が広げられるようにする。

※SDGsとの関連

目標16 平和と公正をすべての人に

英語落語家として活動する大島希巳江さんの想いに触れる活動を通して、国際社会における多様性の尊重や平和の実現に興味関心が広げられるようにする。

5 指導と評価の計画

(1) 評価規準（英語）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>現在完了形（経験用法）の知識を活用して正しく、書いたり話したりすることができる。</p> <p>あらすじや大切な部分などを読み取る（聞き取る）ことができる。</p> <p>現在完了形（完了用法）を用いた文の構造を理解している。</p>	<p>読み取った内容から、自分の考えを用い意見を伝えている。</p> <p>現在完了形（経験用法）の知識を活用し、自身に関することや自分の意見を伝えることができる。</p> <p>会話を広げるために、相手の発言に対して、質問したりあいづちをうったりできる。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 英語落語に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>グループ活動において、積極的に自分の意見を発信し、相手の意見を聞こうとしている。</p> <p>学習する中で疑問に感じることを、積極的に解決しようとしている。</p>

(2) 指導計画（全10時間）

本時のめあて	学習活動
(第1時) What is the woman doing?	
<p>・自分たちと落語文化とのかかわりを考えてみよう。</p>	<p>◎教科書23ページの女性落語家の写真を見て、どのような動作を表しているかを考える。 ◎自分たちが落語について知っていることをまとめる。 ◎どうして自分たちはは落語になじみがないのか、どうすれば落語がより身近な文化になるかを考える。</p>
(第2時) 教科書本文の内容に取り組もう。(Lesson3 Part1)	
<p>・現在完了形(経験用法)について理解しよう。</p>	<p>◎これまでに学習した現在完了形との違いに気づく。 ◎新出単語を確認し、本文の内容を理解する。</p>
(第3時) 教科書本文の内容に取り組もう。(Lesson3 Part2)	
<p>・現在完了形(経験用法)を使いこなそう。</p>	<p>◎現在完了形(完了用法)の理解を深め、演習する。 ◎新出単語を確認し、本文の内容を理解する。</p>
(第4時) 英語落語を鑑賞しよう。	
<p>・英語落語を鑑賞し、日本語の落語との違いを考えよう。</p>	<p>◎鑑賞した英語落語の、こういったところが面白かったか話し合う。 ◎英語落語と日本語落語の共通点、相違点を見つける。</p>
(第5時) 大島希巳江さんのインタビューを読もう。(USE-Read) (本時)	
<p>・大島希巳恵さんがなぜ英語落語をするのかを読み取ろう。</p>	<p>◎現在完了形(経験用法)を復習し、会話練習やワークシートに取り組む。</p>

	◎本文の内容を理解し、英語落語への興味関心を高める。
(第6時) 英語落語を練習しよう①	
・日本語落語を英語落語にしてみよう。	◎日本語落語の一部を英訳することを通して、その難しさを実感する。 ◎教科書付属のDVDを視聴し、英語落語を演じる上でのポイントを理解する。
(第7時) 英語落語を練習しよう②	
・発表に向けて、英語落語を繰り返し練習しよう。	◎グループごとに、英語落語の練習を繰り返し行う。 ◎より面白さが聞く人に伝わるようにできる工夫を考える。
(第8時) 英語落語を発表しよう①	
・英語落語を発表し合い、感想を伝え合おう。	◎グループごとに発表を行い、感想やアドバイスを伝え合おう。
(第9時) 英語落語を発表しよう②	
・同上	◎同上
(第10時) 様々な国のお笑い文化を見てみよう	
・「お笑いの多様性」に気付こう。	◎様々な国のお笑い文化に触れ、共通点や相違点に気づく活動を通して多様性を実感する。

6 本時案 (第5時)

(1) 目標

- ・本文の内容を読み取り、英語落語家として活動する大島希巳江さんの想いを理解することができる。
- ・大島希巳江さんの想いに触れることを通して、英語落語への興味・関心を高めることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・ESDとの関連など
◎現在完了形の確認をする。 スライドを見ながら現在完了形を用いた文を復唱する。 ①正しい文を見て記憶する活動 ②空欄を埋めて文をつくる活動	スライドを提示する。	コミュニケーションを行う力 現在完了形（経験用法）の知識を活用して正しく、書いたり話したりすることができる。（知識・技能）
◎ペアになり、スライドに表示される題に沿って30秒間会話を行う。	ペアが組めていない生徒がないか確認する。	
◎ワークシートに取り組み、答え合わせをする。	ワークシートを配布する。	現在完了形（経験用法）の知識を活用して正しく、書いたり話したりすることができる。（知識・技能）
◎教科書本文（Use Read）の内容を理解するとともに、文法事項を確認する。		
◎本文を音声で聞き、聞き取れた単語や内容について小グループで	CDを再生する。	あらすじや大切な部分などを読み取る（聞き取る）こ

<p>シェアする。</p> <p>◎再度音声を聞き、内容を理解する。</p> <p>◎個人で黙読し、疑問のある個所をクラス全体でシェアし解決する。</p> <p>◎スライドに表示される問いに対する答えを考え、内容の理解を深める。</p>	<p>早く読み終わった生徒には、本文中で疑問のある個所を探すよう伝える。</p>	<p>とができる。(知識・技能)</p> <p>グループ活動において、積極的に自分の意見を発信し、相手の意見を聞こうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>学習する中で疑問に感じることを、積極的に解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
--	--	---

問い①: Why does she act English Rakugo out?

<p>◎大島さんが英語落語に挑戦し続けているのはなぜかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(教科書本文より) She wants to share Japanese humor with people all over the world. ・(教科書本文より) She believes that to continue spreading laughter all over the world will make a more peaceful world. <p>◎「笑いを広めることが世界を平和にする」とはどういうことかをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和だからこそお笑いを楽しめる? ・笑っていれば争いが起きない <p>◎次時の内容を確認し、英語落語に取り組むグループの確認をする。</p>	<p>問い②“What does it mean, “spreading laughter will make a more peaceful world”?”</p> <p>次時の内容を伝え、英語落語に取り組むグループを確認させる。</p>	<p>文化多様性の尊重</p> <p>コミュニケーションを行う力</p>
---	---	--------------------------------------

参考資料：大島希巳江(2013)「やってみよう!教室で英語落語」三省堂